

# 神楽坂における夜間景観に関する研究

BR16017 伊東佑真  
BR17072 長谷川航介  
指導教員 鈴木俊治

## 1. 序章

### 1-1. 研究の背景と目的

神楽坂を対象とした景観の研究には文献<sup>1),2)</sup>など多くあるが、それらは全て昼間景観を対象としたものであり、夜間景観に関する調査研究は存在しない。昼と夜とでまちの表情が大きく変わる神楽坂は夜間営業の飲食店が多く、夜間景観がまちの魅力になっていると考えられることから、夜間景観の特徴を定量的に明らかにすることは意味がある。

本研究では以下の諸点を主目的とする。

- ・神楽坂地区の主要街路、路地における夜間景観（主にアイレベル、二次景観）の現況と特徴の解明。
- ・昼間及び夜間の歩行者通行量を把握し、夜間景観と歩行者行動の関係性について考察。
- ・景観に関する住民ウェブアンケート調査による、特に夜間景観に関する住民意識の解明。

### 1-2. 用語の定義

本研究で用いる主な用語の定義は下記の通りである。

**昼間景観**：太陽光による景観。

**夜間景観**：夜間の人工照明による景観。

**一次景観**：歩行者が街路を歩行する際に、特定の対象物を意識せず、初期的・概略的に認識する景観であり、アイレベルで歩行正面方向を見て認識する景観。

**二次景観**：店舗入口など、歩行者が自己の興味対象の細部を注視した際に認識する景観。

## 2. 対象地の概要

### 2-1. 神楽坂の概要



神楽坂地区は新宿区と千代田区、文京区の区境に位置し、明治以来、花街の面影を残す店舗が路地界隈に軒を連ねているが、現在、花街は減少傾向にある。一方、神楽坂通りでは店舗は新旧様々なファサードを持つ店舗が増えている。近年では店舗の入れ替わりが多くなってきており、景観に無配慮なチェーン店の進出が目立ってきている。

### 2-2. 研究対象範囲と調査対象箇所

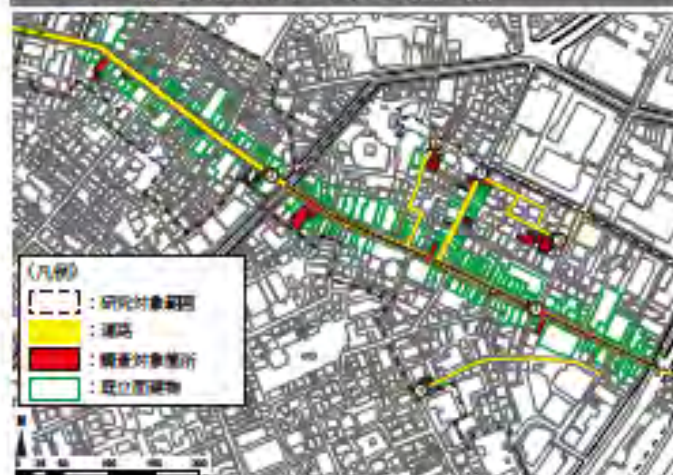


図1-1 研究対象範囲と調査対象箇所

各通り沿道地区の概要は以下のとおり

#### 【神楽坂通り】



① 神楽坂通り1～5丁目  
1Fレベルは、主に飲食店や小売店等が並ぶ商業エリア。街の骨格的街路の役割を担っている。



② 神楽坂通り6丁目  
神楽坂上交差点から東京メトロ神楽坂駅付近までを指す。スーパーなど日常生活を支える店舗が多い。

#### 【各横丁】



③ 本多横丁  
新旧様々な飲食店が多く立ち並び、昼の時間帯から多くの人々が行きかう。



④ 小栗横丁  
西に行くに連れて夜間営業の飲食店が増える。老舗店舗はかつての歩行者が利用し現在も同様とされる。



⑤ かくれんぼ横丁  
路面の石畳と鼻塚坂が特徴である。道幅は狭くかつての花街の面影を強く残す通りである。



⑥ 兵庫横丁  
かくれんぼ横丁同様に石畳の路地と料亭が在る閑静な道である。観光名所としても知られる。

## 3. 調査項目と目的

### (1) 歩行者通行量調査

昼夜間に渡って歩行者通行量調査を行い、比較することで神楽坂地区における通りごとの昼夜間の賑わいに関する特徴を明らかにする。また、今年度ではコロナ禍における影響も考慮する。

### (2) 二次景観調査による景観分析

夜間における建築ファサード景観の照明形態と色味に着目し、それぞれの構成割合を分析することで、神楽坂地区での通りごとの夜間のファサード景観の特徴を明らかにする。

### (3) 一次景観調査による景観分析

夜間における歩行者が無意識的に見た景観の照明形態と色味に着目し、神楽坂地区での通りごとの夜間景観に関する住民等意識を明らかにする。

### (4) アンケート調査

神楽坂地区の夜間景観に関するアンケート調査を行い、NPO 法人粋なまちづくり倶楽部登録ボランティア、商店街関係者、住民による回答結果を基に分析することで、今後の神楽坂にふさわしい夜間景観を考察する。

## 4. 調査方法と結果

### 4-1. 歩行者通行量調査

#### 4-1-1. 調査方法

表4-1 調査日時表

調査月日	曜日	気候	気温	歩行者数	歩行者数/幅員×調査時間
8月28日	水	晴	26.7℃	28.28	280
8月29日	木	晴	26.7℃	28.22	280
8月30日	金	曇	26.7℃	27.42	270
8月31日	土	曇	22.7℃	27.27	270
10月22日	水	晴	20.7℃	26.98	260
10月23日	木	晴	19.7℃	26.64	260
11月22日	水	晴	20.7℃	26.82	260
11月23日	木	晴	19.7℃	26.21	260

対象地において各通り一か所を設定しその地点(図：①～⑥の計6ヶ所)を通過した歩行者数を調査した。神楽坂通りは、全幅員から車道部分を除いた両歩道部分の幅員、その他の通りに関しては道の全幅員を通過する歩行者数をカウントした。実施日は8月から11月の各月、平日と休日に一回ずつ調査を行った。また計測は、13時から21時の間で2時間ごと(計5回)に5分間とした。



## 4-1-2. 調査結果

・平日、休日で通行量の時間帯別の変化が異なる。特に平日の各横丁では、夜間での通行量が多くなっている。  
 ・平日と休日の合計通行量比較では、休日の通行量は平日の約1.4倍である。

・コロナ感染者数と平均通行量との関係性では、調査を実施した8月から11月にかけては7月下旬から始まった「Go To キャンペーン」による影響もあり、月毎の通行量は増加傾向になっていったと考えられる。

夜間：調査日における東京都の日の入り時刻後の時間帯

コロナ感染者数：調査日に発表された都内の新規コロナ感染者数

平均通行量：神楽坂3丁目で調査した1日の歩行者通行量を平均した数値

### 【凡例】

- 神楽坂通り3丁目
- 神楽坂通り6丁目
- 本多横丁
- 小栗横丁
- かくれんぼ横丁
- 兵庫横丁

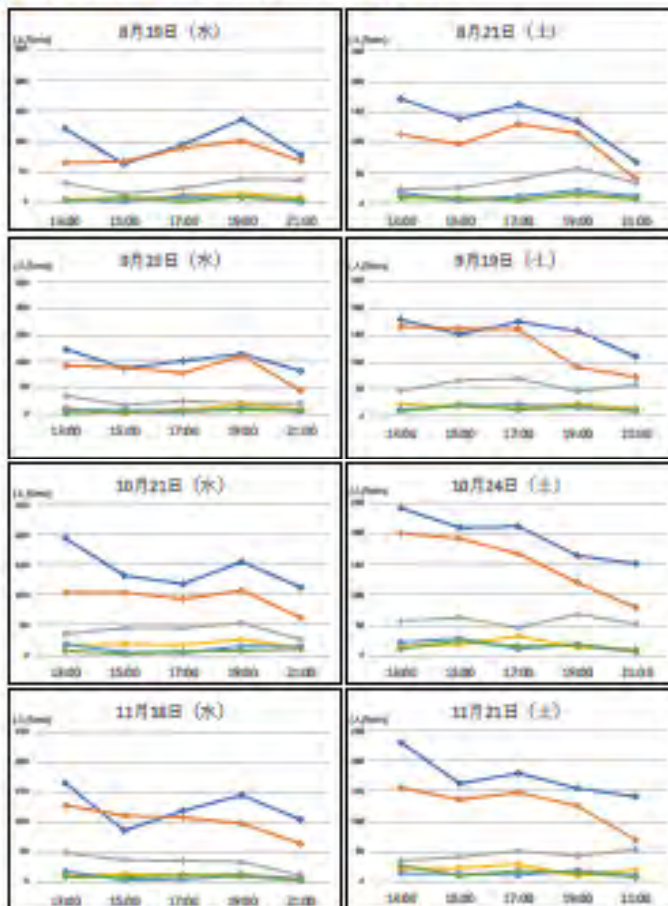


図4-1 全地点時間帯別通行量

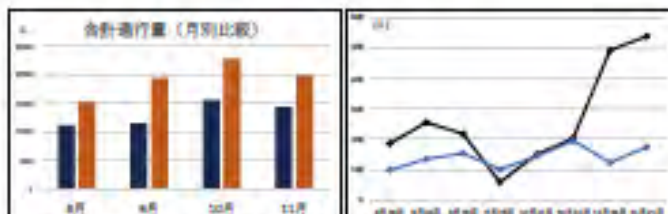


図4-2 平日・休日合計通行量（月別比較）

図4-3 コロナ感染者数と平均通行量

表4-2 日別最多通行量時間帯

調査地点	8月19日	8月22日	9月23日	9月29日	10月21日	10月24日	11月18日	11月21日	計
①	15時台	17時台	13時台	13時台	13時台	13時台	13時台	13時台	1
②	16時台	17時台	18時台	13時台	16時台	13時台	13時台	13時台	3
③	16時台	18時台	13時台	17時台	16時台	16時台	13時台	21時台	5
④	16時台	19時台	19時台	18時台	18時台	17時台	15時台	17時台	7
⑤	17時台	19時台	19時台	17時台	13時台	15時台	13時台	19時台	3
⑥	16時台	19時台	19時台	15時台	23時台	15時台	17時台	13時台	5
計	5	4	4	4	1	4	2	1	3

## 4-2. 二次景観調査

### 4-2-1. 調査方法

対象箇所は、神楽坂通り、各横丁である。（図1）

対象とする建築ファサードは、歩行者が通行しながら見ている低層部（1F軒高下）とし、分析は写真を用いて行う。撮影した写真をもとに立面図を作成し、作成した立面図を「景観構成照明形態」で分類する。更に各要素の占有面積割合を出し、照明形態による箇所ごとの特徴を明らかにする。また、照明形態で分類した立面図を「照明の色味」で着色し分類する。そして上記と同じ様に照明の色味による箇所ごとの特徴を明らかにする。

（撮影方法）

- ・対象の建築ファサードの1F軒高以下に対して正面から撮影を行う。
- ・大人の平均身長を考慮し地上1.5mで撮影する。
- ・レンズ焦点距離は50mmで行う。



※二次景観は回頭動作等により、ファサード面に正対した視野により認識される。

### （凡例と定義）

#### A - 景観構成照明形態の凡例と定義

ファサード面を構成する照明形態の種類により分類する。

- 突出型照明
- 置き看板型照明
- 壁面型照明
- 誘導灯・装飾照明
- 店内から漏れ出す光

突出型照明：街路に対して垂直に伸びる広告照明。

置き看板型照明：店舗の外に置いてある広告照明。

壁面型照明：店舗の壁面に沿って設置された広告照明。

誘導・装飾照明：誘導灯や店舗の装飾のために設置された照明。

店内から漏れ出す光：店舗内を見通すことが可能なガラス面。（店舗内の光が点灯している場合のみ）

#### B - 色味分類の定義

ファサード面を構成する照明形態の色味により分類する。基本的に発光源を見えたままに着色する。その後、暖色系、白色系、その他（高彩度色）に分類する。

## 4-2-2. 調査結果

以下に調査箇所①について、上記の手順で作成した立面図と照明形態、色味による分類を行った図、構成比率グラフを示す。

・各建物の属性(a,b)は飲食店、(c,d)は物販店、(a,c)は個店、(b,d)はチェーン店

### 【立面図】

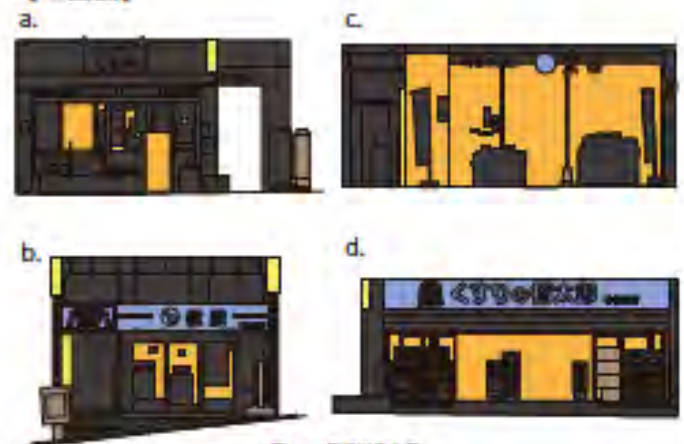


図4-4 照明形態分類



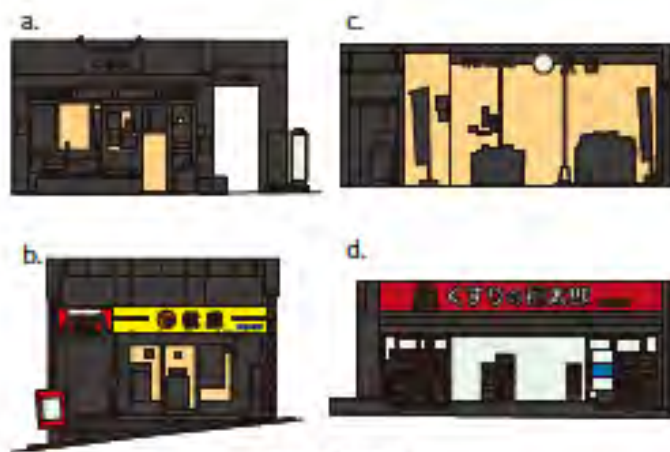


図4-5 照明色味分類

【構成比率】

A - 景観構成照明形態

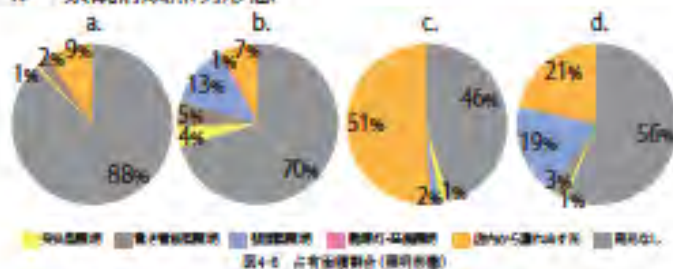


図4-6 占有面積割合(照明形態)

B - 色味分類

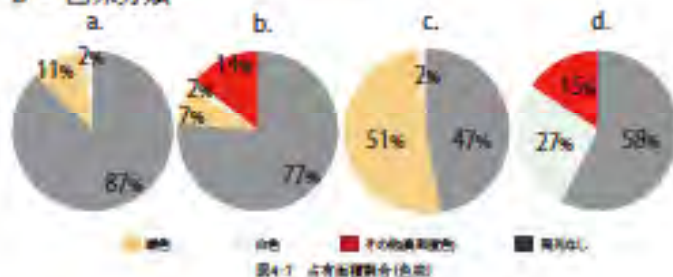


図4-7 占有面積割合(色味)

分析結果から得た主な特徴について示す。

【飲食店】の個店とチェーン店を比べると、個店(a)は、全体を占める照明形態の割合は低く、主な照明は、「建物から漏れ出す光」であるのに対し、チェーン店(b)は、全体の構成を占める照明形態の割合は高く、中でも「突出型照明」と「壁面型照明」が高い割合を占めている。また、個店(a)に比べ、チェーン店(b)は白色系、その他(高彩度色)が多い。【物販店】の個店とチェーン店を比べると、どちらも開口部が大きく、「建物から漏れ出す光」が全体の構成を占める主な照明形態であることが分かる。しかし個店(c)では、色味が暖色系であるのに対して、チェーン店(d)は、白色系である。

【神楽坂通り1~5丁目】照明形態分類、色味分類ともに全対象箇所の中で唯一60%を超えている。照明形態分類では、「建物から漏れ出す光」、「壁面型照明」の割合が高く、色味分類では、白色系とその他(高彩度色)の割合が高い。

【神楽坂通り6丁目】照明形態分類での全体の構成割合は、神楽坂通り1~5丁目より低い、色味分類では、神楽坂通り1~5丁目よりも白色系とその他(高彩度色)の割合が高い。

【本多横丁】各横丁の中で最も照明形態が占める割合が高く、色味も白色系の割合が高い。

【小栗横丁】「突出型照明」「壁面型照明」「置き型照明」が占める割合がなく、今回の調査で対象とした店舗では、照明の色味は、全て暖色であった。

【かくれんぼ横丁】照明形態分類では、各横丁の中で本多横丁に次いで、全体の構成割合が高い。他の対象箇所と比べて「置き型照明」が多いが特徴で、色味も暖色系の割合が高い。

【兵庫横丁】照明形態分類、色味分類ともに全対象箇所の中で最も全体の構成割合が低い。

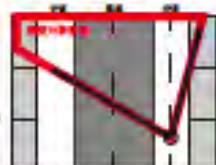
4-3. 一次景観調査

4-3-1. 調査方法

対象箇所は、神楽坂通り、各横丁である。(図1)対象とする歩行者景観は、各通り最もその通りらしい景観一箇所とし、分析は写真を用いて行う。撮影した写真をもとに立面図を作成し、箇所ごとに考察を行う。

(撮影方法)

- ・対象箇所の歩道の中心から撮影を行う。
- ・大人の平均身長を考慮し地上1.5mで撮影する。
- ・レンズ焦点距離は50mmで行う。



4-3-2. 調査結果

以下に調査箇所①について、上記の手順で作成した立面図と照明形態、色味による分類を行った図、構成比率グラフを示す。

【立面図】



図4-8 照明形態分類

図4-9 照明色味分類

【構成比率】

A - 景観構成照明形態

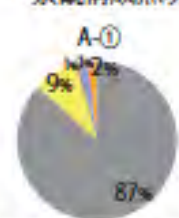


図4-10 占有面積割合(照明形態)

B - 色味分類



図4-11 占有面積割合(色味)

今回、調査対象とした箇所の平均値は以下のとおりである。

- ①神楽坂1~5丁目 ②神楽坂6丁目 ③本多横丁  
④小栗横丁 ⑤かくれんぼ横丁 ⑥兵庫横丁

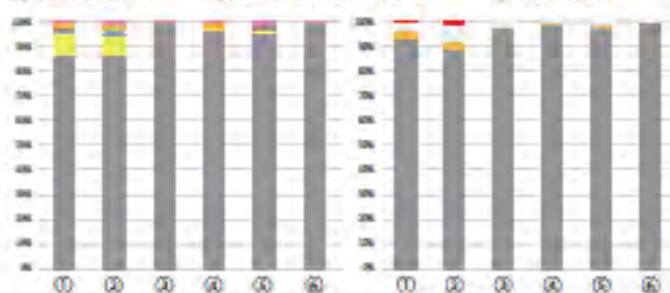


図4-12 占有面積割合(照明形態)平均値

図4-13 占有面積割合(色味)平均値



分析結果から得た主な特徴について示す。

【神楽坂通り1～5丁目】照明形態分類では、「突出型照明」の割合が最も高く、全対象箇所の中で最も高い割合を占めている。次いで「店内から漏れ出す光」、「壁面型照明」となっている。色味分類では、全体の光源の割合は約7%で、暖色系と白色系の割合はほぼ等しくなっている。

【神楽坂通り6丁目】照明形態分類では、「突出型照明」の割合が最も高い。照明形態全体の割合では、神楽坂通り1～5丁目より僅かに上回っている。また、神楽坂通り1～5丁目と比べて「誘導効果・装飾照明」の割合が高くなっている。色味分類では、全対象箇所の中で最も光源の割合が高く、アイレベル景観の約10%を占めている。また、暖色系は神楽坂通り1～5丁目とほぼ等しい値となっているが、白色系・その他（高彩度色）の割合は、2倍以上となっている。

【本多横丁】照明形態分類では、「突出型照明」の割合が高く、各横丁の中でも最も高くなっている。次いで「誘導効果・装飾照明」、「店内から漏れ出す光」となっている。「壁面型照明」はここでは見られなかった。色味分類では、各横丁の中で全光源の割合は最も高く、暖色系より白色系の方が多い。

【小栗横丁】照明形態分類では、「突出型照明」と「店内から漏れ出す光」がほぼ等しい割合となっており、その2種類が全体を占めている。色味分類でも、暖色系と白色系の割合はほぼ同じ値となっている。

【かくれんぼ横丁】照明形態分類では、各横丁で最も全形態の割合が高く、中でも「置き型照明形」、「誘導効果・装飾照明」の割合が高くなっている。色味分類では、白色系の割合が高くなっているが、電灯の灯りを除けば、ほぼ全ての光源の色味が暖色系となっている。

【兵庫横丁】照明形態分類では、全対象箇所の中で最もアイレベル景観において照明形態が占める割合が低い。また各横丁と比べて特徴的なのが、「突出型照明」がなく、「壁面型照明」の割合があることである。色味分類でも、全対象箇所の中で最も光源の割合が低く、白色系より暖色系の割合が高い。

## 4.4. アンケート調査

### 4.4.1. 調査方法

神楽坂地区の夜間景観の現状認識と評価を行い、今後の夜間における神楽坂らしさを明らかにすることを目的としてアンケートを実施した。実施は2020年12月、NPO法人ちなまちづくり倶楽部登録ボランティア、商店街関係者、住民らに対して、google formでアンケート票を送信し（総数約200）、34名から回答を得た。

以下に回答者の属性、アンケート項目を示す。

表4-3 回答者属性

性別/年齢	数	比率	回答用途	数	比率
男性	18	52.9%	住居	21	61.8%
女性	16	47.1%	勤務(都立程度以上)	2	5.9%
10代	0	0.0%	食事、買い物、イベント等(月1回程度)	1	2.9%
20代	5	14.7%	食事、買い物、イベント等(月2回程度)	2	5.9%
30～40代	4	11.8%	食事、買い物、イベント等(回数別程度以下)	5	14.7%
50～60代	20	58.5%	通学通院、通院通学	1	2.9%
70代以上	5	14.7%	回答未定	34	100.0%

表4-4 アンケート項目

- Q1. 神楽坂において、魅力的と思われる時間帯（複数選択可）。以下、1～5の5段階（1:適切ではない 3:どちらともいえない 5:適切）からひとつ選択
- Q2. 各通りの照明の明るさは適切であるか。
- Q3. 各通りの照明の色調（色味）は適切であるか。
- Q4. 各通りは神楽坂にふさわしい夜間景観になっているか。

## 4.4.2. 調査結果

以下に上記の手順で実施したアンケート結果を示す。尚、表4-5はアンケート項目Q2～Q4について5段階評価の平均をまとめたものである。

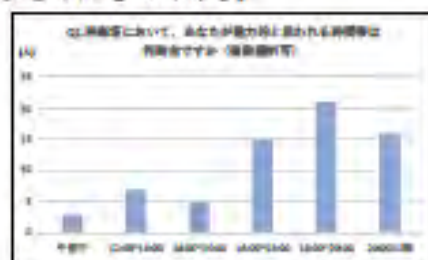


図4-14 アンケート結果①

表4-5 アンケート結果②

	神楽坂通り(1～5丁目)	神楽坂通り(6丁目)	本多横丁	小栗横丁	かくれんぼ横丁	兵庫横丁
明るさ	3.38	3.38	3.38	3.68	3.82	3.88
色味	3.18	3.18	3.38	3.59	3.74	3.62
ふさわしさ	3.18	3.24	3.53	3.68	3.94	3.97

分析結果から得た主な特徴について示す。魅力的な時間帯について18:00～20:00の評価が最も高く、全体として昼間より夜間の回答が多い。

また、「明るさ」「色味」「ふさわしさ」の3項目について、路地の評価が高い傾向にある。神楽坂通りより路地の方が夜間のまちのイメージに合っていることが示された。

## 5. まとめ

神楽坂地区において、一次景観及び二次景観の分析を照明形態、色味の観点から行い、特徴を把握した。これにより夜間のアイレベル及びファサード景観の実態が明らかになった。また歩行者通行量調査を定期的に行なったことで、夜間景観と歩行者行動との関係性が明らかになった。

これらの調査結果と住民等からのアンケート・ヒアリングを基に、神楽坂地区における夜間景観を考察する。主に歩行者行動が多い神楽坂通りでは、各照明形態や色味の多さが目立ち、住民等の評価が低くなっていた。一方で、各横丁では特に「兵庫横丁」の評価が高かった。これは本研究から、歩行者行動が比較的少なく、各照明形態、色味が少なく暖かみのある夜間景観であることが分かった。

また、チェーン店の照明がまち全体の景観を損ねるといった意見が見られたが、二次景観調査の結果、壁面型照明の割合が個店に比べて高く、壁面型照明の色味は高彩度色の割合が高いことが分かった。

以上の調査結果から、住所等が期待やイメージする夜間景観とは、一次景観、二次景観において照明形態、色味の数が少なく暖かみのある夜間景観である可能性が高いことが分かった。

そして本研究結果が、神楽坂の地域らしさや誇りを知る材料となり、今後の神楽坂らしい持続可能なまちづくりへと発展に繋がることを期待する。

## 6. SDGs

8 経済成長 11 持続可能なまちづくり  
夜間においても、賑わいを見せるまちのまちづくり・都市デザインの在り方を明らかにすることで、経済成長・持続可能なまちづくりの実現することができる。

## 7. 参考文献

- 1) 佐野翔: 神楽坂1～6丁目における景観と素材構成に関する研究
- 2) 橋村文学: 神楽坂地区におけるファサード景観と路上アクティビティの実態と関係性に関する研究